
ぎゅう

代夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぎゆう

【Nコード】

N4127A

【作者名】

代夜

【あらすじ】

昔から病的なほど（温もり）に対して貪欲な私は、ある日を境に人生がガラリと変わる。その環境について行こうと必死に努力するが、一つの選択が後々の人生にどれだけ影響するかを切実に書いた物語です。

第一話

「沢山抱きしめてくれるなら付き合ってもいいよ」

これは私が初めて異性に告白された時から必ず指定する条件。

相手の顔はあまりこだわったりしない。不潔感さえ無ければあとは大体許せる。

身長も私より高ければそれでいい。

性格はこれから知って行けばいい。

交際を申し出てくる人がほとんど成功する確率の高い女。

それが私だ。

別に誰でも良いわけではない。

ただ。

抱きしめて私に温もりをくれる存在が居る

それだけで…

（私）は救われる。

生きていけるから。

忘れもしない中学一年の春。

告白されて初めて異性と付き合った。

その時条件に出した

抱きしめてくれる

は、中学三年の彼からしたら承諾していてもまだまだ恥ずかしいこととで。

照れていたのか、あまり抱きしめてはくれなかった。

人通りの少ない場所ですら恥ずかしそうにキスを求めて来るだけ。

私がしてくれないの？と聞くと短くぎゅっとするだけで。またすぐに離れてしまう。

それでは契約違反だろう。

と一ヶ月もしないうちに彼はスッパリと切った。

中学時代は淡白な私の考えは浮きまくり、一時期男子達の話題の種に登ることも少くは無かった。

（後城 さくらは軽女）

良く考えたら

お前らなんでそんなに私に詳しいんだよ。

とツッコミたくなる噂話ではある。

実際中学時代にちゃんと体の関係を持ったのは二年になってからで三人としか付き合っ居ない一年時代にその噂は理不尽極まりなかった。

中学三年になる頃には同年代はもちろん。

（子供）に興味が一切無くなっていた。

そんなこんなで私も高校生。

女子の少ない高校のせいかな。

昔の軽女説のせいかどうかは知らないが、彼氏と別れる度に告白してくれる男子は尽きなかったが。

初めて付き合ったあの日から誰一人として交際日数三ヶ月を越した者はおらず。

結果交際人数だけが日々更新されて行くだけのつまらない日々を送っていた。

第二話

高校二年の夏。自分の性癖に気がつく。

「私。手フェチだ」

初期症状は、担任教師のチョークを持つ手に。教科書を開く手になぜか見とれた。

そしてバスケット部の部長（女）のスラツと伸びた白い手も、目で追いかける。ジツと見つめ続ける。触りたい衝動にかられる。など。今までも無意識の内に手フェチを満喫していた。

自分でも言うのも何だが…私はかなり変わっていると思う。

同じく高校二年の夏。社会人になった先輩につれられて飲み会などに入入りすることが増える。そこには当然年上ばかりが集まる為。子供に興味の無くなった私にはこの上なく楽しい場所だった。

自然と付き合いうのも社会人の男性が対象となり。

私の欲する温もりは満たされることが多くなった。

性的欲求は私には無いのだが……。

まあ抱きしめてさえくれれば後は相手に合わす。

随分とズサンで適当な生き方だが…私はそれに満足していた。

そして高校二年秋。
飲み屋で働き始める。高校に通いながら飲み屋に出勤しつつ飲み会も顔を出す。

さて。睡眠はどこで取っているでしょう。

正解。学校の授業中。先生の声が子守唄。
教科書達は固めの枕。カーディガンは掛布団。
安眠への条件をすっかり満たすのが授業中だった。

そしてバスケットは当然ついて行けなくなり辞めたが。
マネージャーとして残るよう部員達にすりつかれ、今でも放課後は体育館に居たりする。

多忙だが充実した毎日がそこにはあったのだ。

さて。ここまで書けばとりあえず

(1) 私の渡ってきた折れ曲がった人生と (2) ほどよく腐敗臭の
香る私の性格がわかって来たと思います。
それを踏まえた上でこの続きを読んでみて下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4127a/>

ぎゅう

2010年10月20日11時46分発行